



資料：Showing a HIV self-test. Credit Zuberi Mussa

｜タンザニア | HIV 予防に向けた自己検査法を可決

【ダルエスサラーム IDN=キジト・マコエ】

アブドゥルさん（仮名）の店は、ダルエスサラームの活気に満ちたシンザ地区にある。彼は自分の店でプラスチックの椅子に腰掛け、液体と棒でできている小さな検査キットを心配そうに見つめていた。

「HIV に罹っているかどうか知りたいんだ。」と、アブドゥルさんは時計に目をやりながら語った。

この28歳の小売店主は、ほんの少し前に、プラスチックの綿棒を上歯茎に滑らせて液体を付け、検査キットに差し込んだばかりだった。

数分後、1本か2本の線が現れて、検査結果を教えてくれることになる。

幅広い消費財を商っているアブドゥルさんは、HIV 感染の有無を把握する人々の数を増やすことを目指している政府政策の一環として、無料の HIV 自己検査キットを与えられた一人である。

保健省によると、12月に2万9000人に自己検査キットが配布され、1万7000人が実際に使用したとみられるという。

90-90-90: Treatment for all



90-90-90 HIV treatment targets

30 million people on treatment by 2020

90% of people living with HIV know their status

90% of people who know their HIV-positive status are on antiretroviral therapy

90% of people on antiretroviral therapy are virally suppressed

90-90-90: Treatment for all

資料：UNAIDS

口腔粘膜からのサンプル、あるいは指先から採取した血液を使用するこの自己検査キットは、個人が慎重に HIV 感染の有無を検査できる最良の方法である。20分もすれば、検査結果がわかる。

HIV/AIDS 感染者に対するスティグマ（烙印）を抑制できるかもしれない「命を救う新技術」をタンザニア政府が採用しつつあるという積極的な兆候があるなか、HIV/AIDS との闘いを一歩前進させる動きとして楽観的に捉える市民が出てきている。

「HIV 検査を受けることを恥だとは思いません。だから自分でやることにしました。」とアブドゥルさんは語った。

タンザニアのジョン・マグフリ大統領は昨年12月、HIV/AIDS に関する新法に署名し、親の同意なしに HIV 検査をできる年齢を15歳に引き下げた。

同国のウミー・ムワリム保健相は、「HIV/AIDS 自己検査によって、人々は自分の感染状況について知ることができ、必要ならば命を救う治療とケアを受けることができます。この動きは、エイズ拡大を2020年までに食い止める『90-90-90目標』達成へのペースを速めることになるだろう。」と語った。

「90-90-90目標」は、エイズ拡大を終わらせるために国連が設定した野心的な治

療目標である。2020年までに、世界中の HIV 感染者（自分の感染を知らない未診断者+既診断者）の90%が検査を受けて自らの感染を自覚し、そのうちの90%が抗レトロウイルス治療を受け、さらにそのうちの90%が治療の効果で血中のウイルス量を抑制する、というものである。



資料：Map of Tanzania

アフリカにおける HIV/AIDS 対策は進みつつあるが、多くの人々は、検査後の結果で悪い評判が立つことを気にして、検査に乗り気ではない。

自己検査は、HIV に感染しているがその事実を知らない人々に手を差し伸べ、エイズ感染の拡大を食い止めるという世界目標を達成するための革新的な方法だと考えられている。HIV/AIDS 対応に関する持続可能な開発目標（SDGs）の根本原則は「誰も置き去りにしない」というものだ。国連は、エイズ対応に特に関連のある10の目標達成に向けて活動している。

「自己検査の取り組みは、自身が HIV に感染しているかどうか知る人々を増やすことで、HIV/AIDS の蔓延を反転させる可能性を持っています。」と、ムワリム大臣は語った。

2018年時点で、タンザニアには約160万人の HIV 感染者がいる。これは感染率4.6%に相当する。国連合同エイズ計画（UNAIDS）の統計によると、2018年にあらたに7万2000人が HIV に感染し、2万4000人がエイズ関連の疾病で死亡したとみられる。

こうした数字にも関わらず、タンザニアはこの10年で、抗レトロウイルス治療の普及を図ることで、エイズ感染抑制に効果をあげてきた。

ムヒンビリ国立病院の公衆衛生の専門家デウス・キタボンジャ氏は、「HIV 自己検査は、治療の必要性を発見し実際に開始するうえで重要な出発点となります。調査によると、低所得層の多くが、自身の HIV 感染状況について知らないという結果が出ています。自己検査キットによって、治療を加速し、感染を抑えられる可能性があるのです。」と語った。

アフリカは HIV/AIDS に関して世界の中でも重い負担を負っている。2017年の東部・

南部アフリカ地域における新規 HIV 感染者は 80 万人で、2010 年当時と比べると 30% 減っている。この地域に暮らす HIV 感染者の総数（2017 年）は、推定 1960 万人で、そのうち 110 万人が未成年とみられている。

タンザニアで HIV 検査を阻む障害の一つが、個人情報保護への懸念だ。

「自ら望んで HIV 検査施設に行く人はほとんどいません。」とキタポンジャ氏は語った。

一方、HIV 自己検査の利用に関する最近のデータは、感染状況について知る単純かつ慎重な方法が利用できることで、検査を受ける人数を大幅に増やせる可能性を示唆している。

HIV 検査に関する世界保健機構（WHO）のガイドラインによると、HIV 検査に関する消極的な態度を改めさせるために、自己検査の役割に関する証拠を収集・整理してパイロット事業を行うよう、各国に要請されている。

しかし、公衆保健の専門家であるアリ・ムジゲ氏によれば、この方法だけで HIV に関する完全な診断は下せない、という。

「自己検査で陽性反応が出たら、その人は HIV に感染していると言えるかもしれませんが、診断を確定し、その患者が治療とケアを受ける必要があると判断するにはさらなる検査が必要です。」とムジゲ氏は語った。(01.20.2020) INPS Japan/ IDN-InDepth News



資料：SDGs Goal No.3

